

広報

第61号



日大山形

平成26年10月2日発行

LIN.E

～つなく、つながる、みんなの輪～



学園祭全校企画 花びらアート

私たちの文化の華

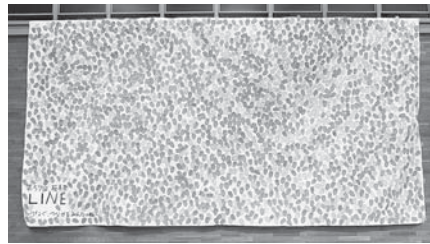
第57回 桜華祭

LIVE

～つなぐ、つながる、みんなの輪～

第五十七回桜華祭が、八月三十日、三十一日の二日間にわたって開催された。晴天にも恵まれ、爽やかな気候の中、「LINE」つながり、つながる、みんなの輪

全校企画



全校生徒の桜の花びらアート

また、両日九時から十四時三十分までの一般公開の時間には、多くの来校者の方々に体育館での公演や出店、校舎内の展示を見ていただいた。実際に目で見て触れて楽しめる企画が多く、各企画は大盛況だった。



多くの来場者で賑うキャンパス

第一体育館後方の壁に貼られた一面の桜。生徒一人ひとりが、家族や友人自身自身に宛てて書いたメッセージを集めて作った、桜の花びらアートである。「いつも美味しいご飯をありがとう」、「これからも私のことを見守っていてください」といった家族や友人への日頃の感謝を込めたものや、「絶対に大学生になるぞ」と将来の目標を書いたものなど、それぞれの思いや個性のあふれるメッセージで彩られた。

実行委員会・各委員会企画

実行委員会の企画では、フリーステージ、男装・女装コンテスト、アームレスリング、のど自慢、バザー、「赤い糸」などが催された。特に男装・女装コンテストでは、出場者それぞれが気合の入ったメイクや衣装で登場し、会場を沸かせた。

また、図書委員会企画の古本市、HR委員会企画のお化け屋敷も好評を博し、大勢の方々が参加した。

クラス企画

各クラスや各部署は、当日まで一生懸命準備した出店やカフェ、展示を行った。



工夫をこらした出店がそろう

出店やカフェは、焼きそばやたこ焼きなどの定番のメニューから、サン

文化部発表

デーや冷やしパインなどの冷たいメニューまで揃っていた。展示は、ベクトルアートやバルーンアートなどの作品展示や、ワニワニパニックなどの当日遊べるイベントなどが企画された。ワクワクするものばかりで、校舎内外が笑い声に包まれた。



(左上)吹奏楽部 (上右)演劇部 (下)ダンスドリル部

両日とも午前には、体育館で演劇部、ダンスドリル部、吹奏楽部、放送部の発表が行われた。

演劇部は体育館倉庫を舞台にした「ミナカミ」を披露した。笑いや涙を誘うシーンもあり、とてもすばらしい舞台だった。

ダンスドリル部は、開祭式も含めて三部を発表した。華やかな衣装に身を包んだ部員達が、音楽に合わせて華麗に踊る姿

はとても美しかった。

吹奏楽部は、ハリー・ポッターの曲やディズニーの曲など多数を披露し、息の合った美しい演奏を響かせた。

また、各教室での展示を行った文化部では、英会話部がイングリッシュカフェを催すなど、各部活動ごと趣向を凝らした楽しい企画となった。

スペシャルライブ

三十一日、特別文化公演として、「ほたる日和」のスペシャルライブが行われた。二〇一〇年にさくらんぼテレビのイメージソングを担当し、山形にもゆかりのある方である。全六曲を披露してくださり、途中からは生徒達がステージ前に集まり、曲に合わせて手拍子をするなど、とても盛り上がったライブだった。



「ほたる日和」ライブ

保護者会

保護者会の方々には、二日間に渡り、とても美味しい芋煮を作っていた。芋煮の後のカレーうどんと共に早々に完売し、大人気だった。

付属校交流

札幌日本大学高等学校との交流企画として、二年七組は「札幌物産展」を企画し、札幌の名産品を販売した。山形ではなかなか買えない品ばかりで、大いに賑わった。



ご当地カップラーメンなどを販売

今年の桜華祭は、二日間とも一般公開になったため、両日とも卒業生や地域の方々など多くの方々においでいただき、賑やかな中で閉祭式を迎えることができた。一人ひとりの記憶に残る、素晴らしい桜華祭であった。

体育祭

七月十五日、十六日の二日間にわたり、体育祭が行われた。昼休みや放課後などを体育祭の練習に割り、チームワークを高めて臨んだクラスが多かった。学年によっては各クラスでオリジナルTシャツを作成し、揃いのTシャツを着て試合に臨んでいた。その姿はまさにクラスのチームワークの良さを象徴していた。試合展開はどちらが勝ってもおかしくないような試合が続ぎ、応援する生徒も一層熱が入り、クラスの一団感が観戦者にも伝わる感動的な体育祭となった。

結果

◆第三学年

(山形市総合スポーツセンター体育館)

▽バレーボール

(男子) 優勝 一組



3年生

◆第二学年

(本校第一体育館)

▽バレーボール

(男子) 優勝 二組
準優勝 一組

(女子) 優勝 三組・十組
準優勝 四組

▽バスケットボール

(男子) 優勝 一組
準優勝 十組

(女子) 優勝 五組
準優勝 四組



2年生

◆第一学年(山形県体育館)

▽バレーボール

(男子) 優勝 九組
準優勝 二組

(女子) 優勝 三組・五組
準優勝 六組

▽バスケットボール

(男子) 優勝 二組
準優勝 一組

(女子) 優勝 八組・十組
準優勝 九組B・十組A



1年生

芸術鑑賞会

SOULMATIONS「ソウルフルコンサート」

感動とパワー みなぎるステージ

六月二十五日、毎年恒例の芸術鑑賞会が山形市民会館大ホールで行われた。今年度は、ゴスペルグループ「SOULMATIONS(ソウルマティックス)」によるコンサートであった。「Soul(魂)」とグループ名に入っているとおり、魂を感じる感動的なコンサート



圧巻のコーラス

だった。魂を伝える、魂の表現がさまざまな雰囲気を作り出す。盛り上がるパワフルな雰囲気、華やかな雰囲気、ピンと緊張した神秘的ともいえる繊細な雰囲気。それが観客である私達の心に響く。何かを感じさせる。人それぞれで感じたことは違うが、一人ひとりの心が動いた。一人ひとりの魂に届いた。

[Amazing Grace] や



魂のこもったステージ

[Happy Day]、一曲一曲にメッセージがこもっていた。会場が一体となり盛り上がったのもすばらしかった。こんな魂の表現を披露するプロの集団に賞賛の念を覚えるとともに、音楽の力、ゴスペル音楽の力を改めて実感する。ゴスペルの根底にあるのは「今どんなに苦しくても大丈夫」「心配しないで」というポジティブな精神だ。私達はゴスペル音楽を楽しみ、熱さを感じ、学校の教室ではできないかけがえのない体験をした。



花束贈呈

生活指導講話

——安全で安心な生活のために——

七月四日、一年生と二年生を対象とした生活指導講話が行われた。

この日は、P.N.Y.(Peer Network Yamagata)の山田弥生氏を講師としてお迎えし、「十代の性について」の講話をしていただいた。

生徒たちは真剣な眼差しで講話を聴き、「十代の性」の問題は、他人ごとではなく自分自身の問題であることをしっかりと自覚することができた。

高校生は多感な時期。好奇心旺盛で、中学生まどとは違って、広い社会、多くの人、たくさん情報の中で生活をしている。



第2回生活指導講話「十代の性について」

今年度、生活指導講話は三回行われた。一回目は五月に「SNSのトラブルについて」という演題で講話をいただき、また九月は第三回として「タバコと薬物」について講演いただいた。様々な生活指導講話とおし、安全で安心な高校生活を過ごすとともに社会人としての知識と教養を身につけてもらいたいと思う。



第1回「SNSのトラブルについて」(右) 第3回「タバコと薬物」(左)

一人ひとりの進路達成に向かって

——本校の進路指導——

本校では、授業の中で「キャリア学習」を、さらに放課後に希望者を対象とした「公務員受験講座」・「職業講話」を行い進路指導の充実を図っている。一年生には進路意識の喚起と文理選択を中心とし、二年生には翌年の進路目標達成に向け、共に進学や就職の現状について理解をより深めるための進路説明会を実施している。

今年度は、六月十一日、十三日に日本大学の学部説明会が行われた。六月十七日には三年生の生徒保護者を対象とした「国



講師の高橋章先生

公立大学進学説明会」が行われた。さらに六月二十一日には一、二年生の生徒、保護者を対象とした「国公立大学進学説明会」、九月二十日に一年生の保護者を対象とした、次年度の文理選択へ向けての「進路説明会」が行われた。これから、十月十八日には二年生の生徒と保護者を対象とした進路希望別の進路説明会が行われる。

進路説明会をとおして、生徒それぞれが目的意識をより強いものにして目標をかなえてほしい。



1・2年生の生徒・保護者を対象とした「国公立大学説明会」

将来の自分をデザインする

——日本大学生産工学部・特別講義——

六月十三日一年生を対象とした、日本大学生産工学部・特別講義が本校第一体育館で行われた。この講義は日本大学生産工学部と本校の連携教育の一環として行われたものであり、大学教育への理解や、学究する態度を養い深めるとともに人間としての生き方・在り方を考えることを目的としている。

今年の特別講義は、「将来の自分をデザインしてみよう」今やること、大学でできること」と題され、日本大学生産工学部教授日秋俊彦先生よりお話をいただいた。日秋先生が準備された「私のキャリアデザインシート」を生徒自身が自らの言葉で作成した。ワークシート作成をおし、「好きなこと/得意なこと」、「嫌い/不得意なこと」、「服したいこと」、「強み」、「弱み」、「十年後になつてほしい私の姿」、そして「そのためにどんな目標

を持つか、どのようなアクションを起こすか」というところに至るまで、自分というものを改めて見つめ直し、進路選択を真剣に考えるきっかけとなったようである。



日本大学 日秋俊彦教授

入学間もない一年生にとって、これからの高校生活についてイメージを明確に持つこと、今を大切に生きることが非常に重要なことであり、生徒たちは体験をもとに語られた日秋先生の言葉の一つひとつをかみしめるように聞いていた。この講義で得たものを自らの力に変え、二年後の進路決定に向け更なる成長を期待している。

海外研修報告

国語科教諭

遠藤 淳一

七月十七日から約一ヶ月間、スペインの各地を巡ってきた。周知の通り、スペインは八世紀初から十五世紀末まで、イスラムに支配された歴史を持つっており、キリスト教カトリック文化とイスラム文化が混在する、欧州でも独特の文化を育んできている。また、同じスペインでも、地勢・気候・風土、歴史的背景等の違いがあり、それらがそのままスペインの各地域の文化的様相の違いに影響していることは言うまでもない。今回の研修では、スペイン各地の、特に宗教面からみた文化的様相を見聞して行くことを大きな目的としていた。



霧につつまれたスペインのサンロケ峠巡礼者像前にて

弱く、レコンキスタが起った地域でもあり、カトリック文化の様相が濃い。町や村は規模の大小に関わらず、教会を中心に一つの共同体を形成し、教会が物理的にも精神的にも大きな支柱になっっているようであった。マドリッドを中心とした中部地域はかつての都トロドや中世の趣が残るアビラ、セゴビア等の都市がある。この地域はキリスト教徒とイスラム教徒が激しく相克したためか、旧市街地はいずれもカテドラルを中心とした要塞の構造を呈し、当時のイスラムへの抵抗の強さが伺えた。セビリア、コルドバ、グラナダといった南部各都市は抵抗する間もなく、早くにイスラムに支配され、イスラムの拠点でもあったためか、イスラム文化が他の地域より色濃く残っていた。

また、建物の色彩も白を基調にし、南国特有の開放感がイスラム文化とよく調和しており、北部や中部の重厚さとは異なる軽快さが心地よかった。日本に比べるとキリスト教文化を実体験する機会はまだであるが、今回の研修でその文化の息づかいを肌で体験できたことは大きな収穫であり、ここを手掛かりにキリスト教文化に根差した西欧文化や西欧人の意識構造を探っていきたくと考えている。

サッカー部 なでしこJAPANと強化練習

サッカー女子日本代表のなでしこジャパンが、韓国で行われるアジア大会での連覇に向け、佐々木則夫監督の地元、山形県で九月九日から合宿を行った。強化合宿の練習相手として、本校サッカー部が指名され、NDソフトスタジアムの運動広場にて三日間にわたり合同練習会が行われた。部員たちは日本の代表と練習が出来ると思気込み、嬉しそうであった。体格の小さな選手でも技術力でこれだけのことが出来るのだと彼女たちはプレー



インターハイ壮行式に臨む本校サッカー部 (於 NDソフトスタジアム)

で見せてくれた。なでしこジャパンはガーナとの強化試合を五対〇で勝利し、九月十五日から始まるアジア大会の予選の一次リーグへ向けて好調の滑り出しを見せた。今後の活躍が楽しみである。

木村祐太郎教諭 全国大会ベスト8

——全国教職員剣道大会——

八月十日(日)に香川県の高松市総合体育館にて、第五十六回全国教職員剣道大会が開催された。この大会は、幼・小・中・高・大・高専・特別支援に在籍する教職員によるもので、本校の木村祐太郎教諭が山形県の予選会で優勝し、県代表として団体戦と個人戦に出場した。

団体戦は二回戦で茨城県から惜しくも負けてしまったが、個人戦では二回戦で三重県代表、三回戦で新潟県代表を破り、見事ベスト8に入賞した。本人は、「日頃から生徒と共に努力してきた結果が実を結びました。この経験を剣道部の指導にも生かしていきたいです。」と力強く語っていた。



日々鍛錬 木村祐太郎教諭

平成二十六年度 特待生・奨学生決まる

日本大学付属高等学校特待生

日本大学付属高等学校特待生規程に基づき、学業成績・人物が優れた生徒。

花輪 美空(天童一中)

- 橘 孟(山大附中)
- 千葉 葵(玉野中)
- 村松可奈子(日大山形中)
- 日本大学山形高等学校奨学生
- 日本大学山形高等学校 奨学金給付規程に基づき、学業成績が優秀で人物が優れた生徒。
- 小関 莉乃(山形十中)
- 栗野 光代(上山南中)
- 井澤 芹花(日大山形中)
- 高橋 研人(金井中)
- 堀米 祐人(山形二中)
- 佐藤 真帆(山形二中)
- 栗原 瑞歩(山形十中)
- 土屋 穂波(天童二中)
- 今野 真衣(山形十中)
- 渡辺 菜穂(天童三中)
- 石栗 拓(山形十中)
- 有海 舞祐(山形十中)
- 須藤 里菜(陵南中)
- 増井 桃香(山形六中)
- 沼澤 峻史(日大山形中)
- 小野 春希(町立朝日中)
- 吾妻 知直(大石田中)
- 須藤 稜太(仙台折立中)
- 日本大学山形高等学校 コーラー育英奨学生
- 日本大学山形高等学校 コーラー育英奨学金 給付要項に基づき、学業成績が優秀で人物が優れた生徒。

平成26年度

ケンブリッジ大学ペンブルックカレッジ 付属校生のサマープログラム 研修報告

サマープログラムを終えて

二年 矢萩 千尋 (葉山中)

私は高校入学当初からこのケンブリッジ研修に参加したいと考えてきました。そして、三回目の選抜試験でようやくチャンスを得ることができました。

このプログラムに参加するにあたり、私は自分ができるのでイギリスに行って十分に楽しめるかどうかがとても不安でした。しかし、そんな心配は不要でした。プログラム中に出会った人達は暖かく、とても頼もしい方ばかりでした。また、イギリス滞在中、私は何事にもチャレンジするという事を目標に積極的に活動するようにしました。今まではどうしても勇気が必要な事には尻こみしていましたが、思いっきり行動することはとても楽しいことなのだという事に気づかされました。

この研修を通して初めて異文化に触れることが、何か大きく自分の視野を広げられたように思えます。私が想像していたよりもイギリスは素敵な国

全国の日大付属校から代表生徒四十八名が今年もケンブリッジ大学で十七日間の研修を行った。先生方や大学生のアシスタント達により、さまざまな授業、課外活動が用意されていて充実した毎日を送ったようだ。本校からは二名が参加した。

大きな成長

二年 花輪 美空 (天童一中)

で、正直なところずっと住んでいたと思うほどでした。きっとイギリスの他にも素晴らしい国はこの世界にたくさんあると思います。私はそんな国を自分の足を運んで見つけ出していきたいです。

私は将来海外に留学し、海外と大きく関わりのある仕事に就くという夢があります。この研修を終えてその願望はより一層大きなものになりました。しかし私はまだまだ未熟です。ですからこれからもっともつと努力して苦手なことにも何度かトライして自分の夢を掴みます。

最後に、私にこんな素晴らしい機会を与えてくださった日本大学に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございます。



ロンドントリップの1コマ

世界を見る目が変わる。私は、このサマープログラムを通じてこのことを強く実感することができました。

私はこの二週間という長いようで短い研修期間を、ほとんど英語を話せないのに楽しむことができているのかとても不安でした。周りの付属生たちが自分よりはるかに英語ができるように見え、積極的に自分から現地の先生方や大学生に話しかけることができなくなっていました。

しかし、そんな自分を変えてくれたのは一人のある現地の大学生でした。ある日、道を歩いていると大学生が声をかけてくれたのです。私はとても驚き、どのように返事を返せばいいのかわからなくなっていました。けれども、このままでは何も変わらないと思い、勇気を振り絞って自分なりに一生懸命英語を話してきたのです。私のつたない英語でも必死に聞き取ろうとしてくれた大学生。

世界を見る目が変わる。私は、このサマープログラムを通じてこのことを強く実感することができました。

JRC部 海外活動報告

一年 齋藤 悠華 (天童一中)

山形県青少年赤十字では、書き損じはがきを集めて換金し、そのお金で学用品を買い、カンボジアの子どもたちへ届けるという活動をしています。私は今年の夏、その活動に参加するため、七日間のカンボジア研修に行ってきました。

「笑顔は、世界共通です。」これは、私がカンボジアに訪れて一番心に残ったことです。現地の人たちとふれあう中で、言葉が通じず苦労した場面が多くありました。そんなとき、どんな人にも通じたのが笑顔でした。私たちが笑顔で接すると、あちらも笑顔でかえしてくれます。周りの人たちも一緒に笑って笑顔になるのを見たときに、笑顔は広がるということを実感しました。カンボジアの人たちの笑顔はキラキラしていて、日本に帰っても、こんな笑顔の中にいたいなと思ってしまっただけで、暗い現実も目にしました。地雷で手足をなくした人や、お金を

山形県青少年赤十字では、書き損じはがきを集めて換金し、そのお金で学用品を買い、カンボジアの子どもたちへ届けるという活動をしています。私は今年の夏、その活動に参加するため、七日間のカンボジア研修に行ってきました。

せがむ人など、日本ではありえない事が、当たり前前に起きていました。本物のミサイルや、地雷を見たときは、言葉を失いました。私はそんな現状をみて、もつと私たちができる支援を継続していかない、さらに充実させていくべきだと思いました。

私は、学用品を届けた学校で出会った一人の女の子が忘れられませぬ。その子が私たちに言った、「私は皆さんに一生懸命勉強することを誓います。」という言葉からは、純粹に、勉強したいんだという気持ちが伝わり、私も負けてられないなと、勉強に対しての意識が変わりました。

このように、七日間でたくさんのお話を学びました。この経験を生かして、今やるべきことを探しながら、自分の夢に向かって進んでいきたいと思えます。そして、少しでもこの活動をたくさんの人に知っていただき、興味をもってほしいです。そうすることで、支援の輪が広がっていくと思えます。



前段真ん中が齋藤さん



ケンブリッジ名物バンティング

学 校 説 明 会

全体説明と個別相談・校舎見学・部活動見学

	期 日	会場及び時間
第1回	平成26年 10月 5日(日)	受 付 9:20～ 9:55 説 明 会 (第1体育館) 10:00～11:20 以下は希望になります。 { 個 別 相 談 11:20～ 校 舎 見 学 11:20～12:00(予定) 部 活 動 見 学 11:20～12:10(予定)
第2回	10月19日(日)	
第3回	11月16日(日)	
第4回	11月30日(日)	
第5回	12月14日(日)	

※上記以外の期日に学校参観をご希望の方は、ご遠慮なくお電話の上ご来校ください。
 ※部活動見学については、学校説明会前にお問い合わせください。(023-641-6631 担当/小笠原、渡部)

※学校説明会では、学校生活全般、並びに入試に関する詳しい説明を致します。
 ※事前のお申し込みは必要ありません。上履きをご持参ください。



一致団結体育祭

フオト・ア・ラ・カイト



全国大会へ向けての壮行式



煌 ～響け魂の演奏～



日大山形の猛者決定戦 ～桜華祭～



出店の飾りもカラフル ～桜華祭～

日本大学山形高等学校広報部
 〒990-2433 山形市鳥居ヶ丘四一五五
 電 話 〇二三一六四一一六六三一(代)
 F A X 〇二三一六四一一六六三四
 U R L <http://www.yngt.hs.nihon-u.ac.jp>
 印刷 (株)大風印刷
 写真提供 (有)カメラの石山



生物部の発表 ～桜華祭～



芸術鑑賞会

編集後記

「和食」がユネスコ無形文化遺産に登録され、注目が集まっている。登録にあたって日本政府は和食の特徴として次の四点を挙げている。一、多様で新鮮な食材とその持ち味の尊重、二、栄養バランスに優れた健康的な食生活、三、自然の美しさや季節の移ろいの表現、四、年中行事との密接な関わりである。

各地域の食材が多彩で、季節に応じた飾りつけ、調度品や器を使用しており、まさに目で味わい、舌で味わう、「和食」は実に繊細で奥が深い。そういったところが、多くの人々を魅了している。海外の人々は、「和食」＝「健康」というイメージが強く関心が高い。生徒達は普段からコンビニは欠かせなく、八月の桜華祭での出店のメニューも「和食」からはかけ離れていない。東京オリンピックが決まったからというのではないが、あらためて私達は、「和食」の素晴らしさを見つめ直し、健康で豊かな生活を過ごしていきたいものだ。